

# 実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 1 所属部課名 教育委員会 岩間図書館

事務事業名	図書館管理運営事業		評価区分	事務事業性質	維持管理事業	後期基本計画 重点組点	補助単 独区 分	所管省庁		
			評価事業	重要事務事業	—			市単独		
総合計 体系	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕		新規・継続	継続					
	小政策	2 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります		開始年度	終了年度					
	施策	1 生涯学習		不明	単年度繰り返し	共催者・関係団体			補助率	
	小施策	2 施設・設備等の活用と充実								
予 算 科 目	会計	款	項	目	細目名	関連計画				
	一般	教育費	社会教育費	図書館費	図書館費標準の事業	根拠法令	笠間市立図書館の設置及び管理に関する条例			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						直営	—	—		

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
図書館法に定められた図書館の主要サービス(図書館サービス事業)が円滑に実施されるために必要不可欠である。	・視聴機器その他、館内備品の修繕を行い、利用者が快適に利用できる環境を維持する。		・消耗品15千円 ・修繕費20千円 ・通信費150千円 ・工事費745千円
H25事業計画		H26事業計画	
同上		同上	

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	利用者	④ 対象 指標	岩間地区の市民	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	・利用者がいつでも快適に利用できる。 ・利用したい資料・情報が速やかに入手できる。	⑤ 成果 指標	入館者数	人
手段	③目的を達成するために実際にを行った行政活動(サービス)	・快適に利用できる環境を整える。	⑥ 活動 指標	開館日数	日
				資料整理日	日

## 【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入 コスト (イン プット)	事業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円		20		20		930		930		930		930		930	
			事業費計(ア)	千円		20		20		930		930		930		930		930	
人 件 費	職員割合		人	千円	0.55	4,125	0.55	4,125	0.55	4,125	0.55	4,125	0.55	4,125	0.55	4,125	0.55	4,125	
	時間外		千円					80		80		80		80		80		80	
	嘱託臨時		千円																
	他課の協力分		千円																
		人件費計(イ)	千円		4,125		4,125		4,205		4,205		4,205		4,205		4,205		
		トータルコスト(ア)+(イ)	千円		4,145		4,145		5,135		5,135		5,135		5,135		5,135		
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活 動 指 標	開館日数		日		269		293		296		292		295		292		296		
	資料整理日		日		12		12		12		12		12		12		12		
対 象 指 標	岩間地区の市民		人		16,025		15,694		15,882		15,500		15,500		15,500		15,500		
	入館者数		人		108,105		111,383		118,232		120,000		120,000		120,000		120,000		

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	図書館は、すべての利用者へ資料及び幅広い情報を提供する場であり、情報提供のための資料収集・保存には適している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	利用者が安心・安全に利用できるための施設の維持管理は図書館運営の基本である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	岩間図書館は、複合施設として市民センターいわまの2階に設置されているため、光熱水費等の維持費は、岩間支所地域課管理であり、これ以上の削減余地はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り, 反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	施設の維持管理は、利用増加の促進及び、サービスの向上を図るためにも不可欠な事業
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案          ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点 ③前年度の改革・改善案          ④取組状況	その他 ⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる この事業がなされなければ、本市の図書館サービス事業を実施すること不可能  ⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している
---	--	--

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民の生涯学習を推進し、本市の政策・施策を実現する上で必要不可欠な事業であり、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現状維持	

# 実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 2

所属部課名 教育委員会 岩間図書館

事務事業名	図書館サービス事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画 重点担点 健康都市づくり	補助単 独区 分	所管省庁	
			評価事業	重要事務事業	—			市単独	
総合 計画 体系	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕		新規・継続	継続			補助率	
	小政策	2 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります		開始年度	終了年度				
	施策	1 生涯学習		事業 期間	S60	単年度繰り返し	共催者・関係団体		
	小施策	2 施設・設備等の活用と充実							
予 算 科 目	会計	款	項	目	細目名	関連計画			
	一般	教育費	社会教育費	図書館費	図書館標準費準の事業	根拠法令	(法定) 図書館法		
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						直営	—	—	

1 【事務事業の全体概要及び背景】 図書資料及び、視聴覚資料の貸出は、図書館における図書館業務の根幹をなす業務	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】 ・利用者が必要としている資料を購入し、提供する ・岩間地区の地域性にあった資料の購入	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】 旅費1千円/消耗品費1,290千円/通信運搬44千円/印刷製本33千円/委託料1,013千円/使用料2,193千円/備品費4,921千円/負担金28千円
H25事業計画		H26事業計画	H27事業計画
同上		同上	同上

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	利用者	④ 対象 指標	岩間地区の市民	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	・市民生活の質を高め、豊かで安心できるものとなるよう様々な学習機会・情報が得られる。 ・市民・利用者からの資料案内・調査(レファレンス)に的確に応える。	⑤ 成果 指標	入館者数 資料貸出冊・点数 市民一人当たりの貸出点数	人 冊・点 点
手段	③目的を達成するために実際にを行った行政活動(サービス)	・利用者の要望に応じ、様々な観点で資料・情報・学習機会を提供する。 ・様々なテーマに基づき、レファレンス事例の保存活用を図る。 ・図書館資料を充実し、確保する。	⑥ 活動 指標	開館日数 開館時間 資料購入点数	日 時間 点

## 【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移															
		事業費	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)	26年度(計画)	27年度(計画)	28年度(計画)					
投入 コスト (イン プット)	事業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円											
			県支出金	千円											
			地方債	千円											
			その他	千円											
			一般財源	千円	6,636	7,440	9,523	9,520	9,520	9,520	9,520				
	事業費計(ア)	千円	6,636	7,440	9,523	9,520	9,520	9,520	9,520						
人 件 費	職員割合	人	千円	2.00	15,000	2.00	15,000	1.95	14,625	2.00	15,000	2.00	15,000	2.00	15,000
	時間外	千円		77	89	130	130	130	130						
	嘱託臨時	千円	4,725	6,914	8,195	9,196	8,196	8,196	8,196						
	他課の協力分	千円													
人件費計(イ)	千円	19,802	22,003	22,950	24,326	23,326	23,326	23,326							
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	26,438	29,443	32,473	33,846	32,846	32,846	32,846						
指標区分		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(目標)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)						
活 動 指 標	開館日数	日	269	293	296	292	295	292	296						
	開館時間	時間	2,690	2,806	2,947	2,920	2,950	2,920	2,960						
	資料購入点数	点	4,450	3,250	3,208	3,300	3,400	3,400	3,400						
対 象 指 標	岩間地区の市民	人	16,025	15,694	15,882	15,500	15,500	15,500	15,500						
成 果 指 標	入館者数	人	108,105	111,383	118,232	120,000	120,000	120,000	120,000						
	資料貸出冊・点数	冊・点	216,716	220,702	230,449	231,000	231,000	231,000	231,000						
	市民一人当たりの貸出点数	点	14	15	15	15	15	15	15						

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 図書館資料の貸し出し実績は年々増えており、新刊書購入に対する市民のニーズは高まっているが、行政全体を取り巻く経済情勢の悪化により、年々図書館資料費が削減されておりサービスレベルの維持が困難な状況である。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	図書館は、「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と相まって、生涯学習の一翼を担っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基いている。また、図書館資料は学習資源でもあり、その利用は自主性・自発性を旨とする生涯学習を端的な形で表しており、有効性は高く、利用も伸びている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	資料の購入等については、3館で協議し購入計画を立てている。また、各種サービス、事業については、各図書館の状況に応じて展開している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	本事業は、図書館の根幹的事業であり、利用者が必要とする資料の収集・提供を行うことにより、利用者の教育と文化の発展に貢献している。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 課題なし	フォローアップ 前年度の課題や問題点 ③前年度の改革・改善案	その他 ⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 本事業は、図書館の根幹的事業であり、これを廃止すれば、図書館としての体をなさず、本市の生涯学習推進上、支障が出る。
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	④取組状況	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民の盛んな利用は、当事業に対する市民の高い評価を裏付けるものであり、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 3 所属部課名 教育委員会 岩間図書館

事務事業名	子ども読書活動推進事業				評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画 重点項目 地域の活性化	補助単 独区分	所管省庁	
					評価事業	重要事務事業		市単独			
総合計 体系	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕				新規・継続	継続		補助率	・読み聞かせボラン ティア等	
	小政策	2 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります				開始年度	終了年度				
	施策	1 生涯学習				H20	単年度繰り返し	共催者・関係団体			
	小施策	1 学習情報及び学習機会の提供									
予算 科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市子ども読書活動推進計画				
	一般	教育費	社会教育費	図書館費	図書館費標準的的事业	根拠法令	(法定)子どもの読書活動の推進に関する法律				
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無			
						直営	—	—			

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する	・学校への資料の貸出数の増加 ・ブックスタートやおはなし会、読書フェスティバル等への参加者数の増加 ・絵本や児童書の貸出数の増加		報償費20千円/消耗品220千円/印刷製本6千円/保険料4千円/委託料1千円 ・資料購入費 (図書館サービスに計上)
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段			単位		
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	乳幼児から高校生まで	④ 対象 指標	乳幼児から高校生まで ブックスタート対象者 乳幼児から児童まで	人 人 人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	・図書館資料・読書を通して親子のふれあい・語り合い・絆を確かなものとする。 ・事業への参加を通して子育て支援が得られ、読書活動や図書館利用が盛んになる。	⑤ 成果 指標	高校生までの貸出冊数 ブックスタート参加者数 おはなし会・読書フェスティバル参加者	冊 人 人
手段	③目的を達成するために実際にを行った行政活動(サービス)	・地域や学校・施設等との連携を図り読書活動・子育ての支援と資料の提供をする。 ・ブックスタートやおはなし会、子ども読書フェスティバルなどの事業を開催し、読書に親しむ機会を提供する。 ・年齢に応じた資料情報の提供や事業を開催する。	⑥ 活動 指標	開館日数(貸出日数) ブックスタート開催日数 おはなし会・読書フェスティバル開催日	日 日 日

9 事業費及び指標の推移																		
事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入 コスト (イン プット)	事業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円														
			県支出金	千円														
			地方債	千円														
			その他	千円														
			一般財源	千円		184	39		251		250		250		250		250	
事業費計(ア)		千円		184	39		251		250		250		250		250			
人 件 費	職員割合		人	千円	0.65	4,875	0.65	4,875	0.65	4,875	0.65	4,875	0.65	4,875	0.65	4,875		
	時間外		千円		12	86		86		86		86		86		86		
	嘱託臨時		千円		405	2,996		343		342		342		342		342		
	他課の協力分		千円															
人件費計(イ)		千円		5,292	7,957		5,304		5,303		5,303		5,303		5,303			
トータルコスト(ア)+(イ)		千円		5,476	7,996		5,555		5,553		5,553		5,553		5,553			
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動 指標	開館日数(貸出日数)		日		269	293		296		292		295		292		296		
	ブックスタート開催日数		日		6	6		6		6		6		6		6		
	おはなし会・読書フェスティバル開催日数		日		50	51		52		52		52		52		52		
対象 指標 成果 指標	乳幼児から高校生まで		人		13,538	13,346		13,084		13,000		13,000		13,000		13,000		
	ブックスタート対象者		人		85	96		103		90		90		90		90		
	乳幼児から児童まで		人		8,770	8,608		8,445		8,400		8,400		8,400		8,400		
	高校生までの貸出冊数		冊		51,598	55,297		58,599		59,000		59,000		59,000		59,000		
	ブックスタート参加者数		人		97	93		92		95		95		95		95		
おはなし会・読書フェスティバル参加者数		人		43	53		373		380		380		380		380			

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	本市では「笠間市子ども読書活動推進計画」を策定し、市内小中学校、各関係機関やボランティア団体との連携を図り実施している。本に触れる機会の増加は、本を読む力の増加につながる。本を読む力は学ぶ力の基礎であり、必要性は高い。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	図書館で所蔵している児童書を、読み聞かせや各種イベント、学校との連携を通じて子どもたちにその利用(貸出)を促すという方法は、具体的かつ直接的でわかりやすい方法である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	長期的な統計・評価も必要となるが、子どもが自主的に読書をするための本との出会いや読書へのきっかけ作りは、図書館利用や読書活動を推進する非常に効率的な方法である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	本に触れる機会の増加は、本を読む機会の増加につながる。本を読む力は、学ぶ力の基礎であり、施策の実現に貢献している。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

<p>①改革・改善案</p> <p>課題なし</p>	<p>フォローアップ 前年度の課題や問題点</p> <p>③前年度の改革・改善案</p>	<p>その他</p> <p>⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される  <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる</p> <p>本市が策定した「笠間市子ども読書活動推進計画」との整合性が取れなくなる。また、子どもが本に触れる機会が少なくなる。</p>
<p>②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法</p>	<p>④取組状況</p>	<p>⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない  <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)</p> <p>名称 <input type="text"/></p> <p><input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる  <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している</p>

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 子どもが本に触れ合う機会を増やし、図書館の使い方を学ぶ機会を提供し続けることは、学校教育との連携や生涯学習を推進する市の政策・施策に沿っており、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現状維持	